

受診者10万人超える

阪神北広域こども急病センター

阪神北部3市1町などが共同運営する「阪神北広域こども急病センター」(伊丹市の受診者が、

開設3年半で延べ10万人を突破した。当初の予想を上回るペースだが、尼崎、西宮両市からの受診が年々増え続けている実情もある。混雑時には診察まで数時間かかることもあり、対策を迫られている。(霍見真一郎)

開設3年半 予想上回るペース

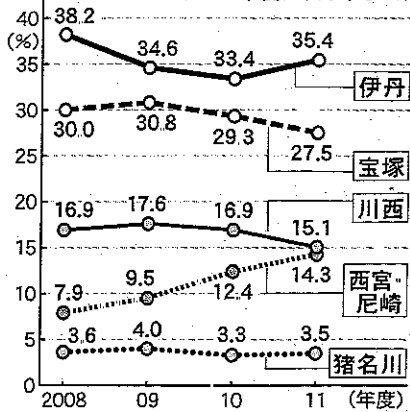
伊丹、宝塚、川西市とべ2万5350人。新型猪名川町では、重症患者インフルエンザが流行しを扱う二次救急病院が輪 09年度は3万3171番で軽症患者も受け入れ 人、10年度も2万753てきたが、同センター開 5人が駆け込んだ。設後は、軽症患者の一次 本年度は9月末までの救急拠点として役割分担 半年で1万4803人がが確立した。

年中無休で開いている 診者は10万859人に上同センターは当初、年間 った。

2万1千人の受診を見込 11年度(9月末まで)んだ。しかし開設した2 の受診者を住所別にみ008年度の受診者は延 ると、伊丹が35%、宝塚

阪神北広域こども急病センター 受診者の住所別割合

(2011年度は9月末まで)



尼崎、西宮が年々増加 診察に数時間待ちも



受診者が10万人を超えた阪神北広域こども急病センター＝伊丹市昆陽池2

開設3年半で延べ10万人を突破した。当初の予想を上回るペースだが、尼崎、西宮両市からの受診が年々増え続けている実情もある。混雑時には診察まで数時間かかることもあり、対策を迫られている。(霍見真一郎)

新型インフルエンザの流行時には最高6時間待ちも出た同センター。徳

28%、川西15%など。尼崎、西宮両市からの 井秀朗事務局長は「患者は計2117人(14ームページの待ち時間%)で、川西市の223 報や、看護師が回答する4人にはほぼ並んでおり、電話相談窓口も活用して理由は判然としないもほしい」と呼び掛けている。の年々増加傾向とい